

地域の防災活動への参加



災害時は「自助」、「共助」、「公助」の3つが上手く機能するかどうかで、生死を分けることとなります。ここまでは「自助」について重点的に紹介してきましたが、一人ですることには限界があります。

「共助」といっても、災害時に見ず知らずの人を助けたり、逆に助けられたりすることに抵抗を覚えるかもしれません。そこで、地域住民に地域のイベントや防災活動に参加してもらい、地域内で顔の見える関係性を構築することで、「共助」の土台ができます。

～阪神・淡路大震災に学ぶ～

阪神・淡路大震災での教訓

生き埋めや閉じ込められた際の救助

自力で	家族に	友人に・隣人に	通行人に	救助隊に	その他
34.9%	31.9%	28.1%	2.6%	1.7%	0.9%

自助・共助 97.5%

公助 2.5%

自助・共助の重要性

阪神・淡路大震災で、生き埋めや閉じ込められた人の救助の9割以上は、自力又は家族や友人・隣人・通行人などによるものでした。

大規模災害時には、住民みなさんの助け合いが必要不可欠です。地域住民に自主防災組織の活動を広報し、関心を持ってもらいましょう。

被害を軽減するポイント

地域の防災活動を知ってもらうことが大切！

現在、西宮市には多数の自主防災組織が結成され、それぞれ、地域のために様々な活動をしています。地域住民に訓練などの活動に足を運んでもらい自主防災組織の活動を知ってもらいましょう。

いざという時に隣近所で助け合えることで、災害を乗り切れる確率は格段に上がります。

自主防災組織に期待される役割

- **広報誌**などで、地域住民に自主防災組織の活動を知ってもらいましょう！
- 普段、地域の防災イベントなどには積極的に参加していない幅広い年齢層の方々にも、防災意識のすそ野を広げましょう！

西宮市のホームページもご活用ください！

地域住民への防災啓発にご利用いただける、広報用チラシなどを市のホームページで公開しています。

そのままお使いいただくか、地域版にアレンジするなどご活用ください。

【データの提供等については 地域防災支援課Tel0798-35-3092 まで】



広報用チラシ集



にしのみや防災チャンネル

